

当施設では、

『 外傷性腎動脈本幹損傷に対するステント留置の有効性の検討 』

に関する後ろ向き症例集積研究を行っております。

外傷性腎動脈本幹損傷の発生頻度は 0.05% と非常にまれです。さらに、多発外傷症例であることが多く、他の損傷の治療方針によっては腎動脈本幹損傷の治療方針も左右されるため、確立した治療方針は定まっていないのが現状です。従来の外科的血行再建術による腎機能の改善は乏しく、保存的治療では腎血管性高血圧の合併により腎摘出術を余儀なくされることも多いため、近年では非侵襲的な治療である IVR を用いたステント留置による血行再建の報告が増加してきています。

そこで、**2005年1月から2014年12月までの期間**、当院救命救急・災害医療センターで、**外傷性腎動脈本幹損傷に対しステント留置を施行した症例**を後ろ向きに検討することで、外傷性腎動脈本幹損傷に対するステント留置の有効性を検討することを本研究の目的としています。

観察・評価項目として、年齢、性別、受傷機転、多発外傷の重症度評価スコア (ISS (Injury Severity Score))、CT 所見、血管造影所見、受傷からステント留置までの時間、抗血小板薬の投与の有無、損傷側の腎機能、血液検査所見、経過観察期間、合併症の有無・種類、臨床的予後があります。

本研究により得られた個人情報は、匿名化し個人が特定されないデータとして厳重に保管し徹底した管理を行います。後ろ向き研究であり患者さんに不都合が生じることがありませんが、調査を拒否される方は研究代表者に電話連絡することで調査から除外することが可能です。調査を拒否される場合、**2017年3月31日**までに下記研究代表者までご連絡ください。また、本研究への診療情報の提供を拒否された場合でも、それにより不利益が生じることは一切ありません。

本研究結果は、学会や論文で公表し、今後の診療に役立てられる予定です。
本研究に伴う倫理的問題については、倫理委員会の承認を受けております。

連絡先 TEL042-778-8111 (代表)

北里大学医学部救命救急医学

実施責任者 救命救急医学 助教 かしま りみえ 榎見文枝

実施担当者 救命救急医学 助教 まるはしたかあき 丸橋孝昭

救命救急医学 助教 やまやたつひろ 山谷立大

当施設では、内視鏡的止血困難な大腸憩室出血の患者様に対して『大腸憩室出血に対する血管内塞栓術におけるイミペネム/シラスタチン（IPM/CS）による塞栓の有効性の検討』を行っております。

イミペネム/シラスタチンは現在広く使用されている抗菌薬の一つです。大腸憩室出血に対する血管塞栓術の安全な塞栓物質としてイミペネム/シラスタチンを使用した症例をカルテ調査し、その有効性を後ろ向きに検討しています。

対象は2007年8月1日～2015年8月31日の間に当院救命救急センターで大腸憩室出血に対してTAEが施行された患者の中で、塞栓物質としてIPM/CSが使用された全患者様。

得られた情報は個人情報であり、院内のコンピューター内で保存します。解析前に個人を特定できる情報は削除し、解析結果は個人が特定されない状況下で、研究会や学会、論文等にて公表されます。

後ろ向き研究であり患者様に不都合が生じることがありませんが、調査を拒否される方は研究代表者に電話連絡することで調査から除外することが可能です。

本研究結果は、学会や論文で公表し、今後の診療に役立てられる予定です。
本研究に伴う倫理的問題については、倫理委員会の承認を受けております。

連絡先 TEL042-778-8111（代表）

北里大学医学部救命救急医学

研究代表者 救命救急医学 助教 かしみらみえ 榎見文枝

研究協力者 救命救急医学 助教 まるはしたかあき 丸橋孝昭

救命救急医学 助教 やまやたつひろ 山谷立大

循環器内科に入院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめることによって行います。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 神奈川県循環器救急患者の現状と予後に関する研究

【研究機関】 北里大学病院循環器内科

【研究責任者】 阿古 潤哉（循環器内科教授）

【研究の目的】 急性心筋梗塞の詳細な実態等を明らかにし、

これらの情報をもとに将来の患者さんの治療に役立てること

【研究の方法】

- 対象となる患者さん：発症 24 時間以内に急性心筋梗塞で来院した患者さん
- 利用するカルテ情報：来院日時、年齢・性別、急性心筋梗塞発症時の状況、既往歴・合併症、心電図所見、冠動脈造影所見、血液検査結果、治療内容等、1 年後の状態

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、
以下にご連絡ください。

1 年後に当院に通院されていない場合はお電話させて頂く場合もあります。

【問い合わせ先】

神奈川県相模原市南区北里 1-15-1

北里大学病院 救命救急・災害医療センター 担当医師：竹内 一郎

電話番号：042-778-8111（病院代表）

『北里大学病院 ICU における肺炎の起因菌の現状について(特にインフルエンザ桿菌に着目して)』

肺炎は一般的に死亡率が高い感染症であり、迅速な診断と治療が必要です。集中治療室に入室する様な患者様は抵抗力も低下しており、さらに危険な状況にさらされることが多いです。近年抗菌薬に対し耐性を示すものが増えてきており、菌種によっては効果がないものもあり抗菌薬の変更などを強いられることもあり治療期間の延長につながります。本研究は当院での検出される菌の耐性化の傾向やその性質を調べることにより、今後のより一層効果的な抗菌治療に活かすことを目的とするものです。今回は昨今特に耐性化が問題となっているインフルエンザ桿菌に着目し研究を行います。

本研究は、当院 ICU で 2014 年 4 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日までの期間に肺炎と診断された患者様の喀痰を対象としております。対象症例の過去の診療録から年齢、性別、基礎疾患などを抽出・調査し治療効果や予後を検討しています。本研究により得られた個人情報は、匿名化し個人が特定されないデータとして厳重に保管し徹底した管理を行います。本研究は後ろ向きにデータを収集するだけであるため、指針に従い、研究対象者から同意を取得しませんが、診療情報の提供を拒否する機会を保障するためにオプトアウトのポスターを掲示いたします。過去の医学情報の調査ですので患者さんに不都合が生じることがありませんが、診療情報の提供を拒否される方は研究代表者に電話連絡することで調査から除外することが可能です。診療情報の提供を拒否される場合、2017 年 8 月 31 日までに下記研究代表者までご連絡ください。また、本研究への診療情報の提供を拒否された場合でも、それにより不利益が生じることは一切ありません。

(北里大学病院代表：042-778-8111、研究代表者 救命救急・災害医療センター山谷立大(ヤマタツヒロ))

本研究結果は、学会や論文で公表し、今後の診療に役立てられる予定です。
本研究に伴う倫理的問題については、倫理委員会の承認を受けております。

『北里大学病院救急科における菌血症の起因菌の現状について(特に MRSA に着目して)』

敗血症は死亡率が高い重症な感染症であり、迅速な診断と治療が必要です。また 3 次救急である当院救命救急・災害医療センターで診療している様な患者様は重症で抵抗力も低下しており、さらに危険な状況にさらされることが多いです。その中で MRSA(Methicillin resistant Staphylococcus aureus)と呼ばれる多剤耐性菌による敗血症は死亡率が高いといわれています。通常 MRSA 敗血症は院内感染によって引き起こされますが、近年 CA(Community-acquired)-MRSA と呼ばれるタイプの異なる市中感染型の多剤耐性菌が検出されるようになってきています。CA-MRSA は通常の MRSA よりも毒素産生などを起こし重症化することも多いといわれています。本研究は当院救命救急・災害医療センターで検出された血液培養検体の傾向及び MRSA の遺伝子的特徴や菌の抗菌薬感受性の傾向やその性質を調べることにより、今後の感染予防やより一層効果的な抗菌治療に活かすことを目的とするものです。

本研究は、当院救命救急・災害医療センターで 2007 年 4 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日までの期間に敗血症を疑われ血液培養が採取され培養陽性と判断された患者様の血液を対象としております。対象症例の過去の診療録から年齢、性別、基礎疾患などを抽出・調査し治療効果や予後を検討しています。本研究により得られた個人情報、匿名化し個人が特定されないデータとして厳重に保管し徹底した管理を行います。本研究は後ろ向きにデータを収集するだけであるため、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に従い、研究対象者から同意を取得しませんが、診療情報の提供を拒否する機会を保障するためにオプトアウトのポスターを掲示いたします(オプトアウトとは自身の診療情報などが研究対象として使用されることを知った場合にその提供を拒否できる制度をいいます)。過去の医学情報の調査ですので患者さんに不都合が生じることはありませんが、診療情報の提供を拒否される方は研究責任者に電話連絡することで調査から除外することが可能です。診療情報の提供を拒否される場合、2018 年 8 月 31 日までに下記研究責任者までご連絡ください。また、本研究への診療情報の提供を拒否された場合でも、それにより不利益が生じることは一切ありません。

(北里大学病院代表：042-778-8111、研究責任者 救命救急・災害医療センター山谷立大(ヤマヤタツヒロ))

当院では以下の臨床研究を実施しております。この研究は診療で必要な観血的動脈圧ラインの挿入部位による安全性や有効性の検討を行います。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「お問い合わせ先」へご照会ください。

〔研究課題名〕

Distal radial approach による観血的動脈圧ラインの安全性と有効性の検討

〔研究機関〕

北里大学医学部 救命救急医学

〔研究責任者〕

丸橋 孝昭（まるはし たかあき）

（北里大学医学部 救命救急医学 助教）

〔研究の目的〕

観血的動脈圧モニタリングの挿入部位によって、事故抜去、医療関連機器圧迫創傷の発生、リハビリ制限などの改善につながるかの検証を目的とする。

〔研究の方法〕

対象：2019年1月1日～8月31日までに当院 EICU に入院した患者様

評価項目：事故抜去件数、医療関連機器圧迫創傷発生率、リハビリ達成度など

〔個人情報の取り扱い〕

データを匿名化し、名前・住所など個人を特定できる情報は削除します。研究成果は学会や学術雑誌で公表されますが、個人が特定できる情報は利用しません。

※研究への参加を希望されない場合は 2020 年 3 月 31 日までに下記問い合わせ先までご連絡ください。

〔問い合わせ先〕

住所 神奈川県相模原市南区北里 1-15-1

電話番号 042-778-8111（病院代表）

北里大学医学部 救命救急医学

担当：大井 真里奈